

山中湖自転車・歩行者道景観検討委員会

設立趣意

山中湖は、自然公園法に基づく富士箱根伊豆国立公園区域内に位置し、また、富士山の世界文化遺産に係る推薦書の構成資産にも選ばれており、自然及び文化的資源などが豊富な地域である。

さらに富士山麓の高原に位置するという立地特性から、古くから避暑地として多くの観光客が訪れる地域となっている。特に、国道 138 号沿道は山中湖の中で最も賑わう観光スポットとなっており、観光客が集中する地域である。

しかし、山中湖畔を通過する国道 138 号の一部において、自転車・歩行者道が未整備となっており、自動車交通によりサイクリングや散策を楽しむ観光客が危険にさらされていることから、訪れる観光客が安心・安全に山中湖の魅力を堪能できるよう自転車・歩行者道整備の必要性が求められている。

このような背景のもと、交通安全の観点から自転車・歩行者道の整備を進めるとともに、山中湖の周辺景観の保全にも配慮する必要があるため、有識者等の専門的見地から当該地域の周辺景観と調和した自転車・歩行者道のデザイン評価を行っていただくことを目的として、「山中湖自転車・歩行者道景観検討委員会」を設立するものである。